

平成26年度 文部科学省 共同利用・共同研究拠点  
「国際常民文化研究機構」(A) 共同研究(一般) 申請書

公募のテーマ	① 2 3 4 (左のいずれかに○をしてください。)		
研究課題名	東アジアの伝統的木造船建造および操船技術の比較研究		
申請者氏名 (研究代表者)	(ふりがな) こん まさあき 昆 政明	所属機関 職 専門分野	神奈川大学 特任教授 民具学
研究 組 織	氏名	所属機関・職・専門分野	分担課題
	小熊 誠	神奈川大学・教授・民俗学	沖縄と中国の木造船に関する技術伝播
	織野英史	瀬戸内海歴史博物館・専門職員・民具学	推進具・造船用具を中心とした比較研究
	越来勇喜	越来造船・沖縄木造船船大工手元	沖縄木造船と中国木造船の技術比較
	昆 政明	神奈川大学・特任教授・民具学	船図を中心とした船型の比較研究
	出口晶子	甲南大学・教授・民俗地理学	船体構造を中心とした比較研究
	出口正登	写真家・映像製作	映像記録
	廣瀬直樹	氷見市立博物館・主任学芸員・民具学・考古学	出土船を中心とした船体構造の比較研究
	前田一舟	うるま市立海の文化資料館・学芸員	沖縄木造船と中国木造船の比較研究
新垣夢乃	神奈川大学歴史民俗資料学研究科・博士後期課程	若手研究員として沖縄と中国・台湾の海洋文化の比較研究	

この研究は各地域において伝統的木造船に関する調査研究を蓄積した研究者が共同し、日本と中国を中心とする東アジアの伝統的木造船の建造および操船技術の比較研究を行うものである。木造船を中心に比較研究を行うが、民具だけの研究ではなく、その技術移動やその経緯も含めた東アジア海域の研究と位置づける。

研究  
目的  
と  
期待  
され  
る  
成果

日本の伝統的木造船の特徴としてあげられる大板構造に対し、中国の伝統的木造船の特徴としてあげられるのは隔壁構造である。日本における大板構造による造船技術に必要な船材の接合技術、および摺り合わせ鋸やツバ鑿、板をたわめる技術と中国における木造船建造技術の比較が構造面に与えた影響を検証する必要がある。しかし、中国における木造船建造に関しては、建造過程や船大工道具および使用法等の詳細な報告例は、日本国内の研究蓄積に対し十分とは言えない状況である。

沖縄の木造船の構造をみると、和船構造と中国船構造が組み合わされていることが指摘されている。それを細かく分析することによって、造船技術の東アジアにおける伝播と受容の関係を見ることができると期待される。それを調査するために、まず沖縄の木造船調査を行う。沖縄では、海の文化資料館の前田氏と造船船大工の越来氏に全面的な協力を頂き、木造船の中心地であった平安座を調査する。さらに、琉球・沖縄と関連の深い中国福建省の福州と泉州で中国船の調査を行う。福州では、福建師範大学の研究者と交流し、泉州では泉州海上交通史博物館の王連茂前館長と丁館長に木造船技術者を紹介してもらい、実地調査を行う。

さらに、近代以前の技術の移動だけでなく、近代以降の技術の交流が別にある。近代において、和船構造が東アジアに影響を与えたことが知られており、台湾ではその影響を聞くことができる。台南の成功大学には日本船やその影響を受けた中国船の設計図が残されており、その調査を行う。そして、基隆における台湾海洋大学の海洋文化研究所での事前調査では、その周囲の中国船が和船の影響を受けていることがわかっており、その実地調査を行う。

本研究では、これまでの研究成果を整理すると共に、中国における木造船の建造過程と船大工道具の民具学的調査を重点的に進め、合わせて操船技術については、中国で発達した艚と帆装が日本に与えた影響を検証する。

本研究より日本と中国における造船技術の特徴がより明らかになり、日本における木造船の発達過程を東アジア地域の中に位置づけることが可能となる。

\* 年次ごとに研究計画と予算の関係が分かるように具体的に書いてください。

研究  
計画  
画  
(年次別)

#### ○平成 26 年度

- ①本プロジェクト・キックオフ研究会：本プロジェクトを開始するに当たり、メンバー全員による研究の確認と計画を協議する。(10月予定)(神戸市2名、氷見市1名、高松市1名、沖縄2名)
- ②沖縄における木造船の実地調査：本土在住研究者が沖縄の木造船について調査を開始し、沖縄在住木造船研究者および技術者と研究交流を行なう。(2月予定)(神戸—沖縄2名、富山—沖縄1名、香川—沖縄1名、横浜—沖縄2名)
- ③沖縄木造船が影響を受けたと考えられる中国福建の木造船調査のため、泉州海上交通史博物館および福建師範大学で予備調査を行なう。(2月予定)(横浜—福建省泉州市、福州市3名)

#### ○平成 27 年度

- ①中国福建省の泉州海上交通史博物館および福建師範大学を足掛かりに、その地域における中国木造船に関する実地調査を本格的に開始する。(9月予定)(横浜—福州3名、神戸—福州2名、氷見—福州1名、高松—福州1名、沖縄—福州2名)
- ②研究会において中間報告を行なう。(12月予定)(神戸市2名、氷見市1名、高松市1名、沖縄2名)
- ③近代において日本船の影響があったと考えられる台湾の木造船に関する予備調査。(2月予定)(横浜—台湾3名)

#### ○平成 28 年度

- ①福建省における木造船の補足調査。(8月予定)(横浜—福州3名、神戸—福州2名、氷見—福州1名、高松—福州1名、沖縄—福州2名、状況により人数減少の計画)
- ②台湾における木造船の本調査。(9月予定)(横浜—台北3名、神戸—台北2名、氷見—台北1名、高松—台北1名、沖縄—台北2名)
- ③調査研究に関する総合的な研究会(2月予定)(神戸市2名、氷見市1名、高松市1名、沖縄2名)